

無所属の林政行です。

ただいま議題にされております議案第92号 令和2年度奈良市一般会計補正予算に対しまして意見を付して賛成し、討論いたします。

市長は、7月14日の記者会見やご自身のSNSで、GoToトラベル事業に関連しマイクロツーリズムの重要性について発信されています。

マイクロツーリズムの重要性は私も認識していますが、今回の市長の発信により、例えばGoToトラベル事業は殆どの学校で活用されますので、現在市内の小中学校において近隣圏以外で修学旅行を検討している各学校の担当教員や児童生徒とその保護者や、近隣圏以外から奈良市へ修学旅行をご検討されている関係者に多大な影響を及ぼしたものと考えられます。

市長の発信は非常に重く、また、その影響力が多大であるからこそ、観光施策としてのビジョンをしっかりと描いた予算提案へと繋がるものであれば、市長が発信されたマイクロツーリズムの重みと現実味が伴ったものと考えられます。

現在、市内の小中学校は、秋頃に予定している修学旅行に向け、旅行業者等と詰めの協議にかかっているようですが、新型コロナウイルス感染症の動向によっては中止など予断を許さない状況となってきています。

このような事態を防ぐため、また児童生徒や保護者の安心・安全を最大限図るため、私は修学旅行をマイクロツーリズムの趣旨に則り、奈良市内もしくは奈良県内を対象とした施策展開が必要だったのではないかと、そうすることによりあらゆる分野への波及効果は、良い意味で大きな影響をもたらすものと思っております。

児童生徒にとっては、自分たちが住んでいる奈良市内もしくは奈良県内に宿泊することにより、体験などを通じて地域の魅力や美味しい地産地消の食材などに気付き、地域への愛着や誇り、プライドを持ってもらうことで、大人になった時、故郷として、記憶や思い出が育まれ、たとえ奈良を離れても、自分たちが住んでいたところはこんな魅力があるなどの誇りを、自らの言葉で、周りの知人や何らかの機会を通じて、奈良の魅力を伝えていただけることも考えられ、それが将来の観光客や移住・定住者の促進に繋がっていくとも考えられます。

そのような魅力を再発見する特別な旅行プランも、役所や観光協会などのノウハウやネットワークを活かしプランニングすることも可能です。

また、今回の補正予算にある修学旅行のサポートを市内の小中学校にも活用し、また更なる拡充を図ることで、保護者の方や教員の皆様のコロナ禍に対する不安も軽減できます。

そしてこの事業は、奈良に宿泊してもらうことで、旅館やホテルだけでなく、様々な業界等に波及効果が生まれ、奈良の経済や地域の活性化にも大きく貢献できるのではないのでしょうか。

また、奈良市の強みとして世界遺産学習を行っていますので、学校側からみても文部科学省の定める学習指導要領や各校が定める教育目標に沿って、修学旅行の目的を決定し、事前学習・事後学習を踏まえることで修学旅行の教育的意義を高めることも期待できます。

ここまで話してきたことは、正しくマイクロツーリズムの趣旨に則った考え方であり、市長が会見等で発信していることとも相違がないと思っております。

このような政策提案は、普段から児童生徒と関わる学校や教育委員会が積極的に立案し、提案すべきことと考えますが、事業化や財源確保については市長部局の主導的関与があるため、教育委員会として、しっかり市長へ提案及び要望されますようお願いいたします。

修学旅行は、児童生徒にとり、新幹線などにはじめて乗れる楽しみもありますが、友達と一緒に泊まれることが何よりも楽しみだから、中止ではなく市内でもいいから実施してほしいとの声も聞いておりますので、その声を尊重して安易に中止などの判断をせぬよう、学校や旅行会社任せではなく、きちんと効果検証が明らかになるように教育委員会が責任をもって施策実現のフォローをするよう強く要望します。

また今回の補正予算では、緊急事態宣言時において保育施設等で仕事に従事した保育士及びバンビーホーム支援員等への慰労として、商品券を配布しますが、この人達はいわゆる児童福祉施設で働いている方々であります。

児童福祉施設とは、端的に説明すると子どものための保育、保護、養護を行う施設のことです。

括りは違うとは言え、自立援助ホームや里親、精華学院などの方々も、子どものための保育、保護、養護を行っていただいていると思うと、またその方達は今後設置する児童相談所との連携を密にすることも考えると、今回の補正予算はほとんどが国費対応であるにも関わらず、なぜ対象から漏れてしまっているのか疑問であります。

9月の予算では措置していただくよう要望します。

以上で、私の討論を終わります。